

ひょうご 県知協 NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行

兵庫県知的障害者施設協会

〒669-1353

三田市東山898-1 東山荘内

発行責任者 婦木 治

TEL (079) 568-5771

FAX (079) 568-1052

E-mail: higashiy@basil.ocn.ne.jp

印刷所 株式会社アカツキ印刷



平成14年11月23日に宮城県の実業団「船形コロニー」の解体が宣言されて全国的に大きな衝撃が走ってから、国立コロニーのぞみや長野県の西駒郷など次々と大規模入所施設やコロニーの解体や縮小そして再構築が報じられました。新しい障害者基本計画にも地域生活移行がその根幹にすえられ、入所施設は本来に必要な部分についてのみ認めるとなっています。

ところで、先日宮城県浅野知事の「全入所施設の解体宣言」が表明されました。この宣言は全国的に自治体や施設関係者そして育成会などに大きな波紋を投げかけました。浅野知事は「障害者の幸福を実現するという原点に戻って考えたい。地域の中にこそ普通の生活がある。適切な支援さえあれば障害の重い人も地域で生活できる。」として入所施設を解体して地域の中で生活する条件整備をして16年度の予算で知的障害者が地域で生活するための予算を前年度より1.5倍(2億円)にし障害の重い人のためのグループホームの世

話人やデイサービスの職員増員の経費補助の制度も新設する。これにより施設偏重の予算構造を在宅福祉へシフトさせるのと、曖昧な方策から明確に断言することで全国的に論議を巻き起こす狙いがあると思います。この宣言を我々施設関係者はどう受け止めるのか。入所施設が知的障害福祉を大きく後退させている元凶のような内容にも取れます。

しかし、現実の入所施設がすべて障害者の幸福を実現するには不適切極まりないところのように断言されるのは余りも日々日常、懸命に行動障害者や重度障害者の人たちの多岐に渡る支援をしている職員にとつては非常に辛いことでもあります。また実際に入所施設を利用している人たちにとつても「自由がなく人間らしい生活からほど遠い」と言われるのは本当に現実をどこまで把握されているの発言なのか形態だけをのべての決め付けであります。そして、実際に各自自治体で来年度予算の中にもトータル的な支援プランの基に入所施設機能を整備予定しているところはあります。入所施設要望の家族や法人もかなりあります。また地域社会の中での生活を実現していくための地域住民の理解や資源づくりの課題もあります。また、現在の入所施設が本当に利用者にとってそんなに厳しい環境であると言うのならまず、

その改善策に建設的な提言をすることが第一です。いつまでたっても予算構造が変わらないとか、全体的なシフトが変わらないというところで何を言っても構わないということではいけないと思います。目指す方向を否定するものではありませんが、障害のある一人ひとりの生き方や望まれる生活形態というものをもっと大切に議論されなければいけないのではないのでしょうか。つまりはケアマネジメント機能と徹底したサービスのあり方議論の不足があると思います。それを解決してはじめて、ご本人が望まれる地域社会の中で望まれる社会資源を利用され主体的な生活を営まれていけるのだと考えます。そこに在宅支援機能があり通所機能があり入所機能が必要となります。ただし施設機能はあくまでも有期限であり目的不明確な長期利用は極力なくしていかなくてはなりません。今回の宣言が一部の自治体の首長のパフォーマンスや現実乖離の議論として終わらせようとは思いません。長い間、障害者福祉が歩んできた多くの課題が明確にされている宣言だとは思いますが。今後目前にきている介護保険との統合も含めて、障害者福祉が社会全体の福祉としての認証を受ける重要な時期にきています。大いに議論を深めていきたいと思えます。

「ひょうご自閉症・発達障害 支援センタークロバー」 オープン

副センター長 龜山隆幸

この事業は自閉症等に特化した画期的なものであり、自閉症関係者・関係施設の長年の悲願でした。平成14年度に国の新規事業として開始され、平成15年12月に兵庫県から社会福祉法人あかりの家に委託されました。平成15年度末現在、全国で19ヶ所設置されています。

4名の専属スタッフが配置され、自閉症（高機能自閉症を含む）、アスペルガー症候群等の特有な発達障害（年令は問わない）をもつ本人、家族、施設、支援関係者等からの相談等に応じ、必要な助言を行うとともに、関係施設等との連携強化により、地域における支援体制の総合的な整備を図ることを目的としています。

【事業内容】

- (1) 相談支援
関係する施設や機関の紹介や、問題解決に向けて外来・電話・メール、訪問等で相談に応じます。
- (2) 療育支援
家庭や施設等における療育の方針や具体的な援助計画・方法等を助言します。
- (3) 就労支援
就労支援機関と連携をとりながら職場の開拓・職場適応に向けた支援を行います。

(4) 普及啓発及び研修

専門図書貸し出し（約300冊）、勉強会等への講師派遣、調整会議、研修会の開催等を行います。

【施設協会の皆さんへ】

当事業の連絡協議会には、県施設協会の婦木会長始め障害児（者）地域療育等支援事業拠点施設（ルネス花北）、強度行動障害特別処遇事業実施施設（赤穂精華園）にも入っていただいております。

より豊かな自閉症児（者）の支援システムづくりを目指すにあたり、配置される4名のスタッフだけでは限界が生じてきます。まず県施設協会の皆様と積極的に連携をとりながら、その点をつくっていきたいと考えています。その1つとして、各圏域における行動障害を伴う方の短期入所を受け入れていただく拠点的な施設づくり等があげられます。

平成16年度計画においては、施設職員を対象にした支援者養成講座を予定しています。まだまだ未熟な点も多くありますが、どうぞよろしくお願い致します。

6月19日に開設記念講演会を神戸で開催する予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

所在地：高砂市北浜町北脇519
（知的障害者更生施設あかりの家に隣接）

TEL：(0792) 54-3601
FAX：(0792) 54-3403
E-mail: auc.clover@nifty.com
HP: http://homepage3.nifty.com/auc-clover/

第1回近畿地区 グループホーム研修会報告

兵庫県知的障害者施設協会 岡本 征

支援費制度がスタートし、1年を迎えようとしています。支援費制度の柱のひとつが、地域生活の最も重要なサービスであるグループホームと言われています。今後グループホームの大幅な拡充が期待されますが、その一方で、利用者本人の意思の尊重、世話人の役割・身分保障、バックアップ施設の役割、体制、支援費の単価の問題など、多くの問題も抱えています。そこで「地域生活のひとつとしてのグループホーム」という立場から、近畿各地区のグループホームの実践報告や意見交流により、より充実した運営を行うことを目的に標記研修会を去る平成16年2月27日（金）神戸市立勤労会館において開催いたしました。

午前中は、日本知的障害者福祉協会地域福祉ホーム・グループホーム等分科会副座長の高濱潔氏を講師にお招きし、「グループホームの課題と今後の方向性」全国グループホーム実態調査の報告について講演いただきました。午後は、花園大学社会福祉学部専任講師の三田優子氏に「入居者の権利と自立支援」をテーマに講演いただきました。

さらに分科会では、利用者本人、世話人、バックアップ施設職員のそれぞれの有り方について討議を行いました。各分科会とも、提言者の熱

の入った実践報告や会場からも多数の意見や質疑応答が得られ活気あふれる分科会となった様子でした。特に本人部会においては、利用者本人から今後の目標や現在の疑問・要望等、忌憚のない意見が飛び交い、グループホームでの充実した生活にむけ、利用者本人や世話人・バックアップ施設等関係者の努力の跡を垣間見ることができました。

近畿地区において第1回目のグループホーム研修会開催ということ、準備不足で事務局の至らない面も目立ちましたが、近畿全域から参加者数273名という予定を上回る参加により盛会のうちに無事終了することができました。兵庫県内からも施設協会はもとより各地区育成会等からも多数の参加をいただきありがとうございました。研修会終了後も反響が大きく問合せを多数いただきました。グループホームへの関心の高さが顕著であることを実感することができました。第2回研修会開催にむけての課題も浮き彫りとなり、今後は県内はもちろん近畿地区内においても情報や意見の交換を密にし、関係者の連携を図っていききたい所存です。利用者地域での暮らしを豊かにしていくために、今後とも関係者の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

高病原菌鳥インフルエンザの問題が県内を揺り動かしています。正しい情報を入手して、冷静に判断していきましょう。

「静岡で かなえよう夢 つたえよう感動」
第三回全国障害者スポーツ大会開幕
わかふじ大会
 井上久芳

「静岡で かなえよう夢 つたえよう感動」をスローガンにした第三回全国障害者スポーツ大会（わかふじ大会）が静岡県の小笠山総合運動公園エコパスタジアムをメイン会場に、平成十五年十一月八日（土）、九日（日）、十日、（月）の三日間、開催されました。

この大会は障害者スポーツの国内最大のものであり、四十七都道府県と十三政令指定都市から選手、監督、コーチ、介護スタッフ等合わせて約五千五百人が参加しました。兵庫県選手団は桂廣保常務理事（財団法人兵庫障害者スポーツ協会）を団長として、選手六十八人、役員三十九人の総勢百七人の参加となりました（知的関係、選手四十五人・役員二十一人）。また、神戸市選手団は選手、役員総勢六十七人の参加でした（知的関係、選手十六人・役員二十九人）。

今年の兵庫県選手団は、大会前日の七日（金）に新大阪駅に集合し新幹線にて静岡に向かって出発しました。途中、公式練習に参加するために、競技毎に会場ある駅で下車し、現地の大会役員・ボランティアに迎

えられ、バスにて公式練習会場へ移動し、練習をおこない心地よい汗をかきました。その後、それぞれの会場から宿舎に移動しました。

十一月八日（土）、小笠山総合運動公園エコパスタジアムにおいて開会式があり、三日間にわたる大会の幕を開けました。

開会式は全国の選手団のほか、大会役員、ボランティア、観客ら四万人余りが参加。兵庫県選手団も揃いのユニホームを身につけ、晴れやかに入場し式典に臨みました。秋晴れの下、絶好のスポーツ日和のなか皇太子ご夫妻のご臨席を賜り入場行進がスタートしました。開会宣言。大会旗入場後、選手六人のリレーする炬火が最終ランナーに引き継がれ、炬火台に赤々とともされました。つづいて、県立沼津聾学校高等部三年木村南さんの手話を交えた歓迎の言葉に大きな拍手が起きました。

「参加される選手の皆さんには、日頃の練習で培った力を十分に発揮されることを期待します。また、選手同士の友情をはぐくむと同時に、多くのボランティアの皆さんや地元静岡県民の皆さんとも交流を深め、たくさんのお出を出を作ってください。静岡で かなえよう夢 つたえよう感動」のスローガンにふさわしく、参加された一人ひとりの夢がない、感動が広く伝わる素晴らしい大会となることを願います」と皇太子さまの励ましのお言葉をいただきました。

その後、静岡県選手団の稲葉さんと富樫さんの力強い選手宣誓があり、戦いの火ぶたが切られました。

式典後は、県内の盲・聾・養護学校の生徒も加わった総勢二千六百人によるマスメージック（わかふじ国体秋季大会時の式典前演技をアレンジ）に観客席から感動の拍手をうけていました。

競技は午後からスタート。兵庫県選手団は三日間にわたり、陸上、卓球、水泳、ボウリング、フライングディスク、フットベースボールの六競技で熱戦を繰り広げ健闘しました。

三日間の大会日程を終え、閉会の式典が小笠山総合運動公園エコパアリーナにおいて桂宮さまをお迎えして行われました。選手団五千人余り、観客席には地元の方々、関係者等約一万三千人が参加。

大会会長石川嘉延静岡県知事の「選手の皆さんが熱い感動と勇氣、希望を与えてくれた。夢に向かってさらに挑戦することを期待する」と閉会のあいさつで始まり、式典は進み、その後炬火が落とされ大会旗は来年の開催県である埼玉県の上田清司知事に引き継がれ、続いて「わかふじからのメッセージ」と題して県立浜松盲学校の山内真由美さんが「この大会はゴールではなく、新たなスタート」と参加者に呼び掛けて大きな拍手を浴び閉幕となりました。閉会後のファイナルコンサートで

はジャズシンガー鈴木重子さんが出演され、大会イメージソング「夢の翼」や「故郷」を参加者全員で大合唱し、大会を感動的に締めくくりました。

△成績▽知的関係

〔兵庫県選手団〕

金1個 銀4個 銅8個

〔神戸市選手団〕

金5個 銀3個 銅5個

〔お知らせ〕

第十三回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会（明石市大会）について
 と き・平成16年5月8日（土）
 と ころ・明石陸上競技場他



小笠山総合運動公園エコパスタジアム

地区情報

阪丹但地区

「がんばる・かにバル」 「うささやま」

たんば園 足立貞子

阪丹但地区では3回目の文化祭「がんばる・かにバル」を昨年11月に篠山市四季の森生涯学習センターで開催いたしました。この文化祭は、施設間の親睦とPRを目的としますが3年前の役員さん達が「皆さんで頑張れる事」として「がんばる・かにバル」と称されたそうです。毎日頑張ってきた事を発表する場にふさわしく「参加してみたい」と誘われるネーミングであり私は気

に入っています。

以下実行委員の奮闘記(?)です。阪丹但は南北に広がり、気象や土地柄も異なり開催するに当り課題も多いのです。文化祭だから秋に行うにしても、秋は催し物が多く場所探しが大変でした。そして駐車場の大きさもクリアする所となり、出来るだけ大勢の参加者を迎えられる場所として篠山市に決定しました。広範囲の多数施設を結ぶ手段として、今のご時世ですからホームページも開設してPRをし、各施設への連絡等はEメールを使い文明の武器に助けられ準備を進めました。その結果参加施設は30となり、限られた時間にとの様に構成していくかは、実行委員の腕にあり責任重大となりました。当日は、実行委員の他に各施設の職員さんにもスタッフとして加わって頂き全員萌色のジャンパーを着用

丹波・阪神・但馬の障害者文化祭 演芸や作品展通じ交流

阪神・丹波・但馬の知的障害者施設の利用者が、ちがひ文化祭「2003がんばる・かにバル」が13日、篠山市四季の森生涯学習センターで開かれた。27施設から約350人が参加、演芸披露や作品の展示、施設とつづいた作品の販売など交流を深めた。阪丹但地区の障害者施設協議会(川口精蔵会長、笠原隆雄の主催)3年前から開催され、篠山市(柏原町)など17施設の利用者が、大きなステージで、三田(三田市)の5人が「チンチン」を、太田(太田市)の5人が「チンチン」を、法政(法政市)の5人が「チンチン」を、合衆(合衆市)の5人が「チンチン」を、ロビーでは、丹波(丹波市)の5人が「チンチン」を、篠山(篠山市)の5人が「チンチン」を、猪苗(猪苗市)の5人が「チンチン」を、など施設間の交流活動を紹介する写真のほか、利用者が製作した竹・木工製品や絵画、書道作品などが展示され、和服、陶器、パン、クッキーなどの店も、施設からは一口メッセー、ジが通き、紹介された。



し、わかり易くしました。又、舞台や照明装置は本格的であり担当の方も専門であり、安心してお任せする事が出来ました。準備も整い、小春日和を思わせる好天気となり、350人位の方をお迎えし、作業として作られた、ぬくもりが伝わる製品、美味そうなクッキーやパンも並び喫茶も出来ました。ホールでは、ダンス、楽器演奏、ものまね、そして幕間には職員によるマジックショーもあり、2人の息の合った司会者から施設のエピソードも紹介され和やかな雰囲気の中、プログラムは進みま

した。舞台裏では、衣装に着がえて出番を待つ顔は緊張していましたが、「頑張つてね」と声掛けすると笑顔が出ました。舞台の上に立てば、緊張が喜びと自信の変わり、伸び伸びと「主役」となった姿に、胸が熱くなった方は大勢おられた事でしよう。

遠方からの参加者もあり、「11時開演、4時終了」の為、昼食する時間を設けず、舞台を観る事や買物する時間が無かった事、地域の方の参加方法、等課題も多く出ました。終了後のアンケートでは、「次回も参加したい」と全施設が答えており、この文化祭への期待感を感じました。熱心な意見を糧とし、来年はもっと充実した舞台が準備出来そうです。に応援したいと思っています。

終りになりましたが、場所を提供して頂いた篠山市四季の森生涯学習センター、後援を承諾して頂いた、

篠山市、教育委員会、社会福祉協議会、手をつなぐ育成会様に感謝し、盛会裡に終了しました事に厚くお礼申し上げます。

神戸地区

「地域福祉と施設の役割」

社会福祉法人くさの会

ひふみ園 津村宣哲

第2次大戦後、すなわち1940年代後半から、わが国の福祉行政は、全国画一化を目標に施設福祉を軸として児童・高齢者・障害者など社会的弱者の救済保護という視点で発展してきましたが、1970年代になると地域福祉への関心の高まりとともにコミュニティ・ケアの理論が注目されるようになりました。

この理論は、地域共同体で福祉の援助を必要とする人びとに在宅の形態でサービスを提供して安心な生活をするというもので、1980年代になって福祉の重点課題として在宅福祉・地域福祉として取り組んでいます。

地域福祉というのは、地域社会における住民の生活上の諸問題に対して、住民相互の連帯によって問題の解決を図り、住民の生活を高めようとする社会福祉活動であります。

その理念として
1、障害者・児童・高齢者など、すべての人びとが平等に地域社会で、共に生活していける社会が

ノーマルな社会であるとするノーマライゼーション。

2、要援助者に必要な福祉サービスを提供できること。

3、地域社会における福祉ニーズへの対応を住民が主体的に担いながら参加すること。

以上3点の視点から現在の地域福祉について考えてみると、住民の意識は、ノーマライゼーションの理念としては理解していても現実の問題に直面したときには素直に受け入れることにはつながらず、福祉サービスについてみると、メニューとしてはあっても、そのメニューの供給体制は不十分であって住民のニーズを完全に満たすには至っておりません。

住民の参加については、行政主導から一歩踏み出しているものの主体的参加には多くの課題を残しているのが現状です。

とに角、すべての面で今後の人材養成と供給がのぞまれるところです。

一方、施設福祉については、措置から契約へと大きく前進しているかにみえますが、障害者・児童・高齢者など福祉対象者の増大と、急激な核家族化による家族機能の低下により、また財政上の問題もあって、理念ばかりが先行して現実とのかい離が著しく、地方分権の名のもとに地方自治体に肩代わりをさせる等問題は山積しているのです。

そのうえに、施設のあり方として、地域福祉活動の拠点として、施設のもっている専門性を生かして情報提

供や相談・援助など、施設内にとどまらず積極的に地域に出ていくことも視野に入れた活動を期待されているのです。

施設の移転計画で話し合いをもつて感じたことを少し述べますが、地域全体的に福祉のことでもふれていますが、住民の意識は地域によって差はあると思いますが、全体的にみて理念として解っているでも現実とのギャップと、住民相互の連帯とは課題として検討していくことが大切であると思いました。

今後とも、移転に向けて全力を傾注して取り組みますので関係各位のご指導ご支援をお願いします。

播淡地区 第12回ばんだん・ ゆうあい文化祭

若葉福祉作業所 山口 孝一郎

平成15年2月6日(金)午前10時30分より、姫路市文化センターに於いて、3時間40分があつという間に過ぎてしまふ文化祭が盛大に行なわれました。

播淡地区の23施設から、利用者679名、職員299名の計948名の参加、姫路福祉保育専門学校から20名のボランティア、さらに来賓・保護者及び一般見学者も多数参加されました。

毎年、お馴染みになりましたこの

文化祭は、音楽や演技等の文化活動を通して表現することの喜びを感じ、場として企画され、姫路市の共催及び神戸新聞厚生事業団姫路支部の後援・助成を受けて、今年で12回目の開催となりました。今回は姫路暁乃里の利用者の方のあいさつで始まり、元氣いっぱい踊りや会場大盛り上がり、練習の後を感じさせる合奏など、盛りだくさん舞台に皆引き込まれ一緒に楽しみました。最後は、木の根学園たんぽぽ工房の利用者の方の伴奏で「今日の日はさようなら」を全員合唱。はなさきむら作業所の利用者の方の閉会のあいさつで、無事終了となりました。どの施設も趣



向を凝らした衣装、オリジナルの歌など、限られた時間をフル活用してバラエティに富んだ素晴らしい演技を披露して、観るものを飽きさせない、とても内容の濃く楽しい文化祭でした。また、利用者の方々も普段では、なかなか体験できないような本格的な舞台装置を使って、大勢の前で演技する喜びを感じることが出来たと思います。この喜びは、会場を後にする充実したさわやかな表情からうかがえました。

文化祭終了後には、各係りで反省を行い、後日、各施設から寄せられるアンケートとあわせて今後の参考とし、来年も笑顔の絶えない楽しい文化祭が出来るように取り組んで行きたいと思えます。楽しみにお待ちください。



「きょうさん」 第27回全国大会「兵庫」の開催を前に

きょうさん兵庫支部 事務局長

田中 恭

「きょうさん」は、その前身を共同作業所全国連絡会（略称・共作連）として1977年8月7日に結成されました。結成の目的は、国に対する全国規模での要求運動を展開していくことであり、各地の共同作業所づくり運動の経験を深め合うこととにありました。無認可の共同作業所による連絡組織としての出発でしたが、現在では働く場に加えて活動の場や生活の場、生活支援センターなど、成人期障害者の地域生活を支えていくための多様な社会資源による事業体組織として、また、運動体として新たな発展を遂げつつあります。わたしたちの地域を舞台とした労働と生活の営みは成人期障害者の発達と健康の保障を現実のものとし、また絶え間ない要求運動は、関連する法制度の拡充においてもかけがえのない成果を築いてきました。しかし、一人ひとりが働くことの喜びと生活のゆたかさを真に実感し、ノーマライゼーション社会の実現という視点からするならば、わたしたちの実践とそれを支える条件はまだまだ不完全な状況にあります。

わたしたちは、あらゆる障害に対して、また障害の重い人びとを絶えず念頭におき、共作連結成時の志を礎として、次の諸点を不断にめざし実践、経営、運動を進展させていきます。

1. わたしたちは、障害のある人びとが労働を通じて社会参加し、また、地域でのゆたかな暮らしを築く権利の保障をめざします。
2. わたしたちは、障害のある人びとと関係者一人ひとりが大切にされる事業体として民主的な経営をめざします。
3. わたしたちは、地域における共同の事業や運動をすすめる、障害のある人びとが生きがいと誇りをも

てる社会をめざします。

4. わたしたちは、障害のある人びとの夢ある明日をめざし、科学と創造の視点を大切にしながら団結して前進します。

以上は、きょうさん加盟の全国のなかまたちの「わたしたちのめざすもの」です。兵庫支部は全国結成から一年後に15箇所の共同作業所としてスタートし、現在56箇所が加盟や施設、生活支援センター等の数からいけば小さい組織ではありますが、このたび「きょうさん」第27回全国大会」の開催を2年間の論議を重ね決定いたしました。

1995年の阪神淡路大震災で小規模作業所の厳しい現実に直面し、全国のなかまたちからの支援を促みにこたえ、復興を促したことを見ていただき、お礼を申し上げます。

・全国大会への様々なご支援をお願いする中で、障害のある人たちのおかれていた現状を、生活を、そして人間として精いっぱい生きていく姿を知っていただきた。地域の中で働き暮らした経験から、地域の支えと応援をうったえていきたい、大会開催の意義と目的の思いがこめられています。大会を運営いたします実行委員会も2月15日で5回となり、会員の他に貴団体をはじめ18団体にご参加いただいています。

障害の種別、法内、法外施設の枠を超え兵庫県における福祉の向上と発展を願い進めようとする思いは一つであることを実感し感謝の気持ちで取り組んでいます。

参加者も3000人を見込み、そのうち障害のある人は、約1000人、会場内が安全に使用できるように、障害者用のトイレの設置状況は、皆さんが有意義に学び交流できるようなと利用者の実行委員会も立ち上げ話し合いを重ねています。テーマソングも活発に意見を出し合い決めました。ゆっくりだけれど丁寧に、一人ひとりが主人公の大会に創りあげたいと進めています。さて、大会当日まで100日をきりました。開会セレモニーや分科会、

利用者フォーラムなど具体的な大会の運営に関する内容は完成に近づいています。一方で運営を支える資金と要員の不足に、会員一同そして応援してくださる方たちにお力をかりながらお願いをしています。参加費だけではなく、個人、一口1,000円、団体、5,000円、広告協賛一枠（縦5cm×横9cm）10,000円、協賛金を、そして、2日間の延べ要員は1700名を必要としています。福祉の専門学校では授業の一環として応えてくださる所もできましました。将来の社会福祉を担う人たちに学べる良い機会であると確信しています。重ねてお願いいたします。恐縮ではありますがご理解いただきご協力をお願い申し上げます。

5月29日（土）5月30日（日）神戸国際展示場・国際会議場・商工会議所等の会場でご参加をお待ちいたしております。

NP法人

兵庫セルブセンターからの道！

兵庫セルブ 森 章哲

昨年10月末に兵庫県社会就労センター協議会（NP法人兵庫セルブセンター）が中心となり、施設・作業所の製品を集めた通販カタログ「NUKUMORI」が発行されました。それと同時にインターネットショップもオープンし、新たな販路開拓の試みとして運営を始めました。

障害のある方々の工賃アップが課題とされる今、その解決手段の1つとして「施設・作業所の作品を商品として」することが挙げられます。今回取り組むには、より多くの消費者の目に触れ手元には商品が届く環境を整えることにより、商品制作・販売のプロとして消費者の満足度を考える意識を持つていただくのが狙いです。この試みをきっかけに、食品衛生法や薬事法、PL法など基準を満

たす品質向上、消費者が欲しいと思う商品の開発、商品のネーミングや包装など「売るための付加価値の工夫」などに力を入れレベルアップを図っていただきたいと考えています。

また、兵庫セルブでは商品販売の機会を増やすだけでなく、施設・作業所の方々に商品のレベルアップをしていただくための企画も行っています。薬事法勉強会の開催や、プロの視点を取り入れるため施設・作業所への技術アドバイザー派遣や指導員研修などを行い、施設職員の力量アップにも努めています。

作ったものを売る方法を考えるのではなく、消費者が欲しいと思う物を作ることを考える。そしてそれを打ち出した上で消費者に届けるかを検討する。そこまでやって作品は商品となり、仕事は生まれてくるものだ。と我々は考えます。今回の取り組みはあくまでそれを理解していただく過程の第一歩に過ぎません。これから、施設・作業所の方々と共に消費者のニーズにあった物作りを検討する場を提供したり、生産ネットワークを構築するものも我々の役目だと考えます。そのため、商品開発の面でもプロである一般企業に協力いただき、世の中へ様々な形で商品提案していく方法を画策していきます。また魅力ある付加価値を実現するための方法も共に考えていかなければなりません。

このように施設・作業所で作られる作品を商品として販売促進することによって一般消費者と作り手である「障害のある人」を、商品開発を通じて一般企業と施設・作業所をつなぐことが、これからのNP法人化した我々の役割の1つであると考えます。まだまだ始まったばかりで道のりは長いですが、今まで以上に多くの方の知恵や力を借りながら進歩・発展していきたいと考えています。

兵庫セルブ <http://www.hyo-go-selp.jp/>

— 昨年暮れの動き —

小規模作業所・小規模通所授産施設平成16年度政府予算案に関する 抗議文

厚生労働大臣 坂口 力 殿

小規模作業所・小規模通所授産施設関連予算が、大きく削減されていることに、怒りをもって抗議する。

小規模通所授産施設は、1100万円という補助単価が、一般の通所授産施設制度と比べて余りにも劣悪であることは、制度がスタートした当時から指摘されていたことである。このことに対しては、厚生労働省の「とりあえず1100万円から出発し、今後改善していく」という見解からも大きく矛盾し、今回の運営費の切り下げは耳を疑うものである。また、箇所数についても概算要求時よりも76の箇所減じたことも重大な問題である。

小規模作業所は、いよいよ6000箇所をこえ、その地域の社会資源としてなくてはならない『働く場』『活動の場』になっている。小規模通所授産施設は、グループホームなどの地域生活支援の事業ができ、障害のある人たちの願いに応えた制度として、有効に活用されているところである。

兵庫県下には、400箇所近い小規模作業所が存在し、小規模通所授産施設は、26箇所（03年12月現在）になっている。

兵庫県の小規模作業所にとっても、より安定した運営が可能になると小規模通所授産施設への移行が進んでいる。小規模通所授産施設に移行したところでは、1100万円では膨大な事務を行う事務員をも雇い入れることができないと、悲痛な声が当初から上がっていた。

このような状況のなかで、本来求められなければならないことは、小規模作業所ならびに小規模通所授産施設に対して地域の社会資源にふさわしい公的補助が支弁されることである。にもかかわらず、今回の政府の動向は、これに逆行するもので、到底受け入れることは出来ない。

小規模通所授産施設ならびに小規模作業所について、補助単価、補助箇所数ともに今年度（平成15年度）水準を維持するようここに強く抗議するものである。

平成15年12月26日

兵庫県知的障害者施設協会 会長 堀本 治、神戸市身体障害者団体連合会 会長 奥本 一夫、兵庫県手をつなぐ育成会 理事長 松井 美弥子、兵庫県社会福祉センター協議会 会長 東馬場 良文、神戸市知的障害者施設連盟 会長 井上 勝彦、兵庫県精神障害者家族会連合会 会長 西浦 三郎、神戸市精神障害者社会復帰施設連盟 理事長 森中 肇、さようなら兵庫支部 支部長 光岡 留美子

要 請 書

厚生労働省 厚生労働大臣 坂口 力 様

知的に障害のある人たちが、その人らしい生き方を選び、地域で生活している姿は、私たち知的障害のある人たちを支援している者にとっての目標であり、最大の願いであります。わが国は、近年の福祉施設の充実とともに、障害のある人たちが自分らしい生き方（自己実現）が図れるようになってきました。支援費制度は、とりわけ居宅支援費は、そういう彼らの生き方を支える大事な制度だと、私たちは実感しております。

しかし、居宅支援費の知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）にかかわる単価見直しは、私たちの願いである知的に障害がある人たちが、その人らしい生き方を選び、地域生活していく姿を保障できるものではないと言わざるを得ません。

現行のグループホームでの生活においても、課題は山積しております。ましてや単価基準の見直し案では、世話人の確保、支援の質の低下、生活環境の悪化等々懸念せざるを得ない問題が新たに発生してくることは明かです。

つきましては、今回のグループホーム単価見直しを白紙に戻していただき、現行のグループホームの実態調査を行い、知的に障害がある人たちが安心して地域生活を送れるような施策を、当事者を含む関係者との十分な協議を踏まえ、講じていただくことを強く要望いたします。併せて、移動介護を含む居宅介護における単価見直しも白紙撤回していただき、知的障害のある人たちが安心して地域生活を送れるような施策を講じていただくことを要望いたします。

平成15年12月15日

兵庫県知的障害者施設協会 会長 堀本 治、兵庫県社会福祉センター協議会 会長 東馬場 良文、兵庫県手をつなぐ育成会 会長 松井 美弥子、神戸市手をつなぐ育成会 会長 小林 八郎、さようなら兵庫支部 支部長 光岡 留美子

『ここはの家』の前にある知的障害者

寝具や浴室でのタオル類洗濯は、無理だろうなあ、」と思ってしまいました。



ここはの家

新施設訪問
社会福祉法人 新緑福祉会
『ここはの家』
知的障害者入所更正施設

新緑福祉会の最初の入所施設の名前が常緑の葉の安心の家、ここはの家。テーマパークに似たような錯覚に陥る建物、西区の福祉ゾーンの一画に『玉津むつみの家』と同居する形で昨年春に開所しました。全館フロアリングの3階建ての建物を、通所・入所の利用者が、作業室や食堂を共有して（当然、入所方の生活エリアは別ですが）使っておられます。

一階の大食堂は、昼食時はさぞ賑やかなんだらうと想像できます。食堂入り口にある献立表には、誕生日に利用者のリクエスト昼食の予定が、

所在地 神戸市西区玉津町水谷セリ合
電話 078・913・0255
開設 平成十五年三月一日
施設長 川添 宏 史
定員 五十名 ショート五名

福祉工場『あじさい』に委託。リネン室や浴室には洗濯仕立てのシーツやタオルが整然と詰まれています。又、居室廊下には消臭機器が設置されており、快適空間を作り出す努力が伺えました。

今後同じ西区内には、リサイクルの福祉工場も計画されているそうです。帰りに『玉津むつみの家』があった場所を案内してもらい、新緑福祉会の原点に触れさせていただき

新施設訪問.....
社会福祉法人 五輪会
姫路曉乃里
知的障害者入所更正施設

山陽電車大塩駅からタクシーで来て下さい、と言われ乗ったタクシーは、高砂姫路の両市を縫う様に走り、三角屋根の『姫路曉乃里』が現れてきました。夜勤明けの灘施設長を自宅から呼び出して頂き、早速施設を案内していただきました。大半の利用者が外出中で、園に残っている方は少なかつたのですが、フロアリング2階建(一部半地下)2階を中心に2人部屋をレイアウトされ、天窓から明かりが巧く配置され(天窓の下、夏はサウナ状態ですよ、と灘施設長)、センサー照明のトイレ、開閉調節の出来る窓、という工夫されています。驚いたのは、上下移動はエレベーター利用。階段室はキーボタン操作で職員が主に利用するとの事でした。「遊びませんか」シヨートの児童は遊ぶそうですが、特に問題は無いとの事。シヨートでの児童の利用が多いのがこの特色とか。デイルームにも宿直室にも子供の姿がありましたし、養護学校から帰ってきた子供にも玄関で出会いました。児童保育の場にも施設提供したいとの思いもあるようで、成人施設の中での子供の声は新鮮でした。直ぐ隣には通所授産の『太陽の郷』



姫路曉乃里

向こうが太陽やから、こっちは曉です。と笑いながら仰ってました。しかし、同法人内の2施設なのに、其々が単独厨房運営になっていて、効率が悪く、今後の課題でしょう。公共交通機関が無く、「職員採用は、運転免許が必須条件」との事。近くのJR駅までどれくらいですか。御着駅まで十分ほどです。と言われ、礼を言い席を立つと、車で十分、歩いたら・・・と言う事で夜勤明けの施設長を酷使させてしまいました。有難うございました。

所在地 姫路市の形町の方三五五八
電話 0792・47・9797
開設 平成十五年四月一日
施設長 灘 一喜
定員 三十名 シヨート四名

《日誌抄》

9月1日	ひょうご県知協ニュース 第60号発行	(奈良県)
3日	5日 全国職員研究大会	(和歌山市)
8日	近畿地区第一回会長会議	(和歌山市)
18日	福祉の集い	(神戸市)
18日	第3回役員会	(神戸市)
25日	26日 近畿地区施設長会議	(大津市)
10月10日	全国会長会議	(東京都)
15日	第4回役員会	(三田市)
17日	第52回兵庫県社会福祉大会	(明石市)
23日	全国事務局長会議	(東京都)
14日	15日 全国授産施設運営研究協議会	(東京都)
24日	第3回全国障害者スポーツ大会 兵庫県選手団結団式	(神戸市)
24日	授産部会職員研修会	(姫路市)
30日	31日 第1回発達支援施設運営連絡協議会	(京都市)
31日	第47回兵庫県の障害者福祉大会	(朝来郡)
11月8日	10日 第3回全国障害者スポーツ大会(静岡県)	(静岡市)
13日	阪丹但地区がんバル・かいにバル	(篠山市)
14日	第13回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会開催市説明会	(明石市)
16日	第5回ハンディキャップサッカーフェスティバル	(神戸市)
17日	ひょうご大会	(宝塚市)
17日	兵庫県手をつなぐ育成会懇談会	(宝塚市)
20日	21日 第3回生活支援部会全国大会(東京都)	(東京都)
20日	第19回全国通所更正施設職員研修会	(大阪市)
9月25日	生活支援ワーカー研修会	(東京都)
28日	阪丹但地区第2回職員研修会	(三田市)
28日	近畿地区第3回役員会	(和歌山市)
12月4日	5日 職員一泊研修会	(和歌山市)
19日	中堅職員研修会	(明石市)
19日	第13回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会競技関係者打合せ	(明石市)
24日	臨時役員会	(三田市)
1月9日	第5回役員会	(三田市)
16日	平成16年 福祉四団体賀詞交歓会	(神戸市)
2月3日	第13回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会競技役員打合せ	(明石市)
3日	第13回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会参加申込説明会	(明石市)
4日	第2回施設長会	(三田市)
6日	播淡ゆうあい文化祭	(尼崎市)
8日	第12回ひょうご・ゆうあい文化祭	(尼崎市)
16日	17日 第40回近畿地区知的障害関係施設職員研修会	(京都市)
19日	通所更正施設等職員研修会	(神戸市)
27日	第1回近畿地区グループホーム研修会	(神戸市)
3月1日	3日 日本知的障害者福祉協会 部会・分科会協議会	(東京都)
3日	4日 入所更正部会研修会	(加西市)
8日	近畿地区通所分科会職員等研修会	(伊丹市)
11日	近畿地区第4回役員会	(和歌山市)
12日	ひょうご県知協ニュース 第61号発行	(和歌山市)

編集責任者 山崎玲輔